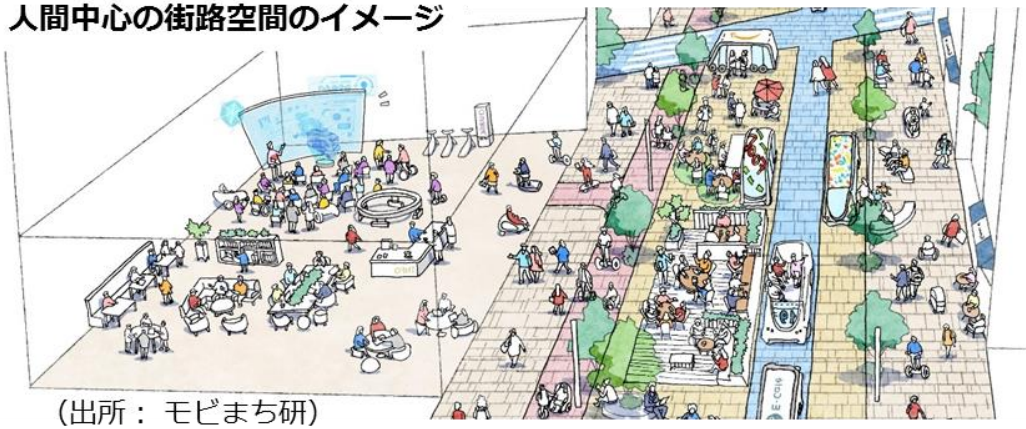
No.5

交流インフラとしての街路空間づくり ～ゆっくり動ける都市生活の再設計～

3.9 億円程度
（事業期間 3年間）

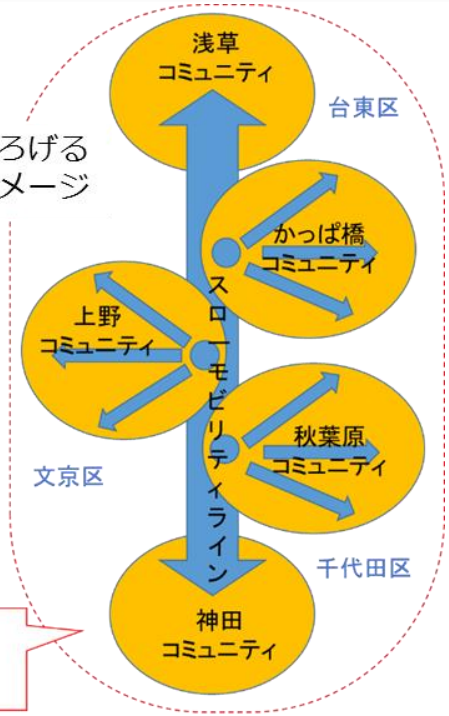
地域コミュニティを超えて面的に地域を活性化するため、街路空間活用による都市モデルを構築をする。調査研究とその成果から、文化資源が集積する東京都心区を対象にした社会実験を実施し、人間中心のスローな街路空間の活性化を提案する。

人間中心の街路空間のイメージ



（出所： モビまち研）

街路空間がつなぎ・ひろげる
地域コミュニティのイメージ



本研究グループと東京都が連携し
地域コミュニティを越えて
面的に地域を活性化

No.5

事業内容の詳細

○ 世界の新しい街路や公共空間を活用した都市再生事例の研究から東京モデルを構築

- コロナ禍に前後して世界中で取り組まれている「人中心」の街路空間の再生事例を研究し、東京の新しい文化的な街路空間づくりとしての、都心部の再生策を検討・提案する。

○ スローな近隣移動体験を豊かにすることで街路空間から沿道商業の活性化を図る

- 街路を活用した社会実験で、車道を歩行者に開放して、新しい賑わいを創出する。
- 一極集中の密な賑わいではなく、各地域の生活文化を感じられるよう、生活圏の往来を円滑にするスローモビリティを導入し、安心して移動できる環境を実現する。

事業実施による効果

21世紀の東京の居心地よく賑わいのある公共街路空間で、都民が主体的かつ能動的に活動でき、安全・安心に多様な人々と交流できるようにする。